横浜ピアスタッフ協会

2019 年度事業報告書

目次

はじめに……３

事務局会議実施報告……４
定例会実施報告……５
第３回神奈川ピアまつり……７
第２回ピアマスター講座……８
リカバリー・パレード in 横浜……９
ISOTT（イソット）……１０
めんちゃれ……１１
ゆらいく……１２
おんぷにだっこ　～たっぷりおんがく～……１３

その他啓発事業……１４
　プシケ太田交流会
　すごいぜ！ピネル工房
　はるかぜピア交流会
　横浜市精連との共催研修　理想の精神保健福祉サービスとは
　『身体拘束を体験する会』実施報告
　罪に問われた障害者について考える会
　統合失調症薬物治療ガイドライン改訂会議

研究協力……１７
　そうかい（相互理解）プログラム（当事者のユーモアある動画による教育プログラム）研究協力
　リビー先生　研究協力
　エスノグラフィ研究への協力（大阪大学大学院）
　紗亜耶研究発表会「YPS の最前線：『お祭り』は『支援』のオルタナティブとなりうるか」
　紗亜耶研究発表会「全人類はピアになれるのか」
　あいりき　研究協力

共同企画……２１
　みんなでなんでもたのしくやろう会
　ナソット
　大阪ツアー
　精神科病院に入院中の方の権利擁護活動の拡充に向けて～大阪精神医療人権センターの活動から～
　きらりの集い
　人権勉強会

オリジナル企画……２４
　アトピー会
　男子会・女子会

YPS 出版部 ……25
　「愛の本（仮)」について

講師派遣……26
　ハーモニー豊岡　講師派遣
　湘南茅ケ崎看護学校　講師派遣
　藤沢病院　講師派遣

結び……27

YPS 憲章 ……28

役員、事務局名簿……29
2019 年事業報告書執筆者 ……30

資料……31
　活動紹介新聞記事
　「身体拘束を体験する会」紹介記事
　2019 年ピアまつり抄録　抜粋
　精神障害者が語る恋愛と結婚とセックスちらし

はじめに

精神保健福祉分野において「ピアスタッフ」という言葉は年々存在感を増しているが、その期待度に反して普及は十分に進んでいないというのが現状である。横浜ピアスタッフ協会（YPS）は、係る現状の元、横浜がピアスタッフの生まれやすい街になることを目指し平成27年11月に設立され、今年5年目を迎えた。

本年度は事務局を新たに設置することで以前より充実した運営体制を維持することが可能となった。

YPSは参加自由の毎月一回の事務局会議にて活動内容を審議・決定し、
隔月に一回行われる定例会を主軸として活動を続けている。定例会の内容としては講師を呼んでの座談会、テーマを複数設定してのワールドカフェ、またレクリエーションに近いもの等バラエティに富んだ活動をしている。

今年度は新型コロナ感染症の流行の影響があり活動規模の縮小を余儀なくされたが、その環境下でもピアマスターの実施など、可能な限り活発な活動を行っている。

外部の団体が企画運営しているイベント等にも実行委員の派遣、当日の参加等で協力をしている。

これら活動の詳細については後述を参照されたい。

今後のYPSとしては、活動のますますの活発化を目指し会員の増加を図りつつ、会員を飽きさせないイベントを今後とも数多く企画運営し、当事者・医療福祉関係者・その他有志の力を結集することによってピアの土壌を強固なものにし、前述の横浜をピアスタッフの生まれやすい街にすることを目指していくものである。

タイトル	事務局会議実施報告
日時	
場所	
参加人数	

2019年度　YPS横浜ピアスタッフ協会　事務局会議報告
4月5日開催
会場：シャロームの家　参加者：17名　決議事項：4月12日定例会について
5月10日開催
会場：シャロームの家　参加者：23名　決議事項：第3回神奈川ピアまつり内容について
6月7日開催
会場：シャロームの家　参加者：20名　決議事項：大阪交流会について
7月5日開催
会場：シャロームの家　参加者：30名　決議事項：第3回神奈川ピアまつり内容について
8月2日開催
会場：シャロームの家　参加者：31名　決議事項：研究協力依頼について
9月6日開催
会場：シャロームの家　参加者：35名　決議事項：10月定例会内容について
10月4日開催
会場：森の庭わーく　参加者：25名　決議事項：10月定例会について
11月1日開催
会場：森の庭わーく　参加者：24名　決議事項：12月定例会について
12月6日開催
会場：森の庭わーく　参加者：26名　決議事項：2月定例会について
1月10日開催
会場：森の庭わーく　参加者：29名　決議事項：第4回神奈川ピアまつりについて
2月7日開催
会場：森の庭わーく　参加者：25名　決議事項：4月定例会について

毎月最初の金曜日の夜、事務局会議を行っています。名前から、かたい雰囲気を想像されるかもしれませんが、実は、毎回非常に和気あいあいと、テンポよく行っています。YPS最高の意思決定機能を持ち、かつYPS活動に興味のある人ならばどなたでも参加可能という開かれた会議です。具体的には主にイベントの企画・運営について話し合っていますが、会議自体が普段別々の場所にいることの多い仲間に会える貴重な機会であり、会議参加で元気になれるというピアサポートの機能も持っています。ぜひ一度、この空気を体感してみてください。皆様の参加をお待ちしています！

タイトル	定例会実施報告
日時	
場所	
参加人数	

各地区対抗ピア合戦
2019 年 4 月 12 日　13 時から 15 時 30 分
野毛地区センター集会室
横浜市の事業所、ピアグループによる発表やアピール大会として開催。
発表内容などに縛りは設けず自由に自分たちの活動を紹介してもらった。
約 10 団体、総勢 80 名が参加し、アピールだけではなくジャンケン大会や椅子取りゲームによる交流も行い盛況だった。最終的に優勝団体は地域活動支援センターのひふみ。
それぞれが自分たちの強みを存分に発揮する定例会となった。

ピア祭り後夜祭
8 月 9 日（金）１８：３０～２０：３０
ウィリング横浜 901 号室
４０名
第３回神奈川ピア祭りの興奮が冷めやったか冷めやらぬかよくわからない中「あれをもう一度再現したい！」そして、来れなかった方にも「追体験していただきたい！」そんな思いで行われた YPS8 月定例会『ピアまつり後夜祭』。各分科会担当者達によって繰り広げられた超高速ダイジェスト。来れた人からも、来れなかった人からもガンガン飛び出す質問と意見。総勢 40 名が円座になってピアまつりについての思いをキャッチボールする様は圧巻であった。締めで行われたお決まりの一芸とその後の懇親会。次回のピアまつりに向けてそれぞれの青写真を心に秘めた僕たちは、コロナウィルスのことなどまだ知る由もなかった。

10 月 11 日　YPS &　　学生大交流会！@ウィリング横浜
「学生と精神障害者、どっちが生きづらいの？」という不毛な議論のために定例会を開催。YPS と少しでも関わりのある小学生、中学生、高校生、大学生、その他の学生に声をかけ、当事者と「生きづらさ」で勝負した。
冒頭では学生と当事者が思い思いの生きづらさを披露するリレートークが行われた。会場がすっかり生きづらい空気で温められたのちに、会場全体を使ったマルバツクイズが行われ、「精神障害者になりたい」「結婚はしなくていい」「友達はいらない」などのテーマについて意見が交わされた。最後は、ワールドカフェ形式でさらなる議論が行われ、世代と障害を超えた「生きづらさ」のバトルは幕を下ろした。

大忘年会
12 月 27 日（金）１８：００～
シャロームの家、シャロームの家 分室、森の庭
会費：1000 円
100 名
新元号を祝福するどさくさにまぎれて言い放った３ケタ動員宣言を見事に達成した大忘年会。相変わらずのジェンダーギャップぶりに無力感を感じつつも食す女性陣お手製の料理はやはり絶品。膨張の果てに三身分裂した会場を行き交う酒と料理と YPS の使徒達。神楽巫女の演奏はやまず、談笑の波は引き潮の気配を見せない。満ち欠けを繰り返した僕達 YPS を締めくくるのはいつも『大忘年会』

今夜は恋愛 4
日付 2020 年 2 月 14 日
時間 18:30~20:30 その後懇親会がありました。
参加人数 50 人
参加費 女性 500 円 男性 500 円以上
新年初の YPS 定例会は、毎年おなじみ恒例行事、「めんちゃれ」とのコラボレーション企画。今年の開催日は、なんと“セント・バレンタイン・デイ”年末年始をモヤモヤして過ごし後悔の毎日。どっかの厚底シューズ履いて速攻逃げ切りをキメるには最適な日の開催でした♪
さて、毎年パワーアップされ、期待度も高くなる、今年のその内容はなんと
YPS が初夏に贈る「愛の本」、その執筆陣が総出演しての、
「全員で恋愛徹底討論」、「今夜は恋愛フェス辛口」、「恋愛評論家に相談」、
「恋愛 SST」、「ケースカンファレンス」
女性には「モテメイク講座!before after」では何人もの女性が素敵にへんしんしてましたよ。進行役は、司会デビューの男性メンバーとプリティな「ポンキッキーズ」さんかっこよかったです。
※料理をふるまいたい方(男女とも)と運営は 17:00 集合されておいしい料理がたくさん振舞われました。

タイトル	第3回神奈川ピアまつり
日時	7月14日
場所	健康福祉総合センター
参加人数	300名
参加費	参加費：当事者500円、それ以外1000円

参加費の徴収と同時進行の分科会を初めて導入した第３回神奈川ピアまつり。会場は第１回と同じ横浜は桜木町の健康福祉総合センター。午前中にみっちりとステージリハーサルを行い迎えた。

午後の本番は、毎回恒例となっているピアまつり盛り上げ隊のドタバタ喜劇により幕を開ける。美人司会者によるオリエンテーションが済んだ後は即座に民族大移動。皆、思い思いの分科会会場に向かった（実際には定員に達して申し込みを打ち切った分科会もある）。

『蔭山恋愛・結婚ゼミナール』

『双極性ワンダーランド』

『YPSフェス辛口』

『病院とピアが一緒に出来ること』

『当事者会万博』

『YPSフェス甘口』

名前だけでは内容が分かりづらいものもあるが、どれも我々YPSにとっては渾身の一手であった。

全ての分科会を終えてクロージングを見ようとメインステージに定時で戻ったつもりの筆者を迎えてくれたのは、帰途につこうとしている来場者達の満足しきった表情であった。連携しながら分科会を同時進行させることの難しさを感じる。

本番より大事と言われる懇親会は、中華街に移動して立食形式で行った。70名の来場者の中には本番に間に合わず懇親会だけ参加するという強者もいた。

毎年規模を拡大し続けられていることについては、来てくださる方、関わってくださる方に感謝しなくてはいけないのはもちろんだが、企画運営する側の大変さもやはりある。だけどせっかくの年に１回のお祭りを、もっともっと盛り上げていきたいし、もっともっと大きなものにしていきたい。ピアというものにどこまでもこだわって、ピアの勢いをアピールし続けていきたい。そう思う。

タイトル	YPS ピアマスター 第２回ピアマスター講座事業報告書
日時	
場所	
参加人数	

目的：①ピアスタッフ及びピアサポーターの育成
②ピアスタッフを雇用する事業所の拡大

YPS 横浜ピアスタッフ協会は、ピアスタッフ/ピアサポートにおいて理想像や明確な定義をあえて設けていません。当講座を通じて、自分がどのようなピアスタッフ/ピアサポーターになるかを自分で考え、また体験（実習）を通じてグループワークで他の受講生と振り返ることで、
課題や悩みを共有します。またピアスタッフの雇用を考える事業所にとっても、実習という形で受け入れることで、実際に雇用した場合の課題や配慮等を検討できます。

概要：５回の講座の受講、事業所への実習を２か所（地域活動支援センター、就労継続支援事業所 A 型・B 型、病院、生活支援センター）　受講料：５０００円

講座開催日：2019 年１０月２０日（日）　１１月１７日（日）
２０２０年１月１９日（日）　２月 16 日(日)　６月２８日（日）

受講者：２２名

講座内容：第１回　自己紹介　実習先の紹介および選定
第２回　実習心得　実習目標設定
第３回　【１期】実習の振り返り及び【２期】実習目標の設定
第４回　【２期】実習振り返り
第５回　卒業スピーチ

事業を終えて：今回は実習先として病院にもご協力を頂き、福祉事業所含め、約２０か所以上の実習先を開拓できました。各講座ともピアスタッフやピアサポーターに関わりや興味を頂いている方も大勢お越しいただき、様々な立場の方と関わり合えたことが受講生の方々に良い機会になれたかと思います。尚、本講座を通じで２名の方がピアスタッフとして雇用につながりました。講座をやって終わりだけでなく、YPS の理念でもある「ピアスタッフ/ピアサポーターの普及」につながった良い事例です。本講座もまだ課題も多いですが、多くの皆様にお知恵を借りながら「いい方向」に進んでいけたらと思っております。改めてありがとうございました。

タイトル	リカバリーパレードへの参加 リカバリー・パレード in 横浜
日時	2019 年 9 月 21 日　時間 13：00～15：00
場所	象の鼻パーク
参加人数	参加者人数　200 人

東京では今年で１０周年になり、各都市でもリカバリー・パレードが行われております。
そして、横浜では今年で四回目でした。
リカバリー・パレードは当事者の顔と声を直接、目で見てもらうことで、依存症や心の病からの偏見を取り除こうという趣旨です。
歌も歌いながら行進していき、最後にハッピーリカバリーと皆で行い、盛り上がりました。
さらに、パレードの前のアトラクションの時間は地域活動支援センターひふみさんによるダンスのパフォーマンス、恒例の琉球太鼓の演武、当事者によるスピーチと目白押しでした。

タイトル	ISOTT（イソット）
日時	
場所	
参加人数	

ＹＰＳ（横浜ピアスタッフ協会）発足以前より地元磯子で定期的に行われてきた音楽発表会・一芸大会。「ＩＳＯＴＴ」の名前はＩ（磯子）・Ｓ（シャロームの家）・Ｏ（面白い）・Ｔ（楽しい）・Ｔ（繋がる）の頭文字からつけた名前で、磯子区の面白い楽しい会を目指してつけたもの。ＹＰＳの原型とも言える参加型企画。シャロームの家・シャローム港南・森の庭わーくを始め地元の福祉事業所に通所する利用者は元より地域の垣根を越えて誰でも参加でき、カテゴリーにとらわれない交流の場となっている。春・夏・秋・冬の季節ごとに一度、主に横浜磯子教会で行われ、毎回 50～60 名の参加者がある。

2019 年度の活動を簡単に紹介する。

・ココロイソット（2019.6.21）　梅雨どきから夏前にかけての気だるい季節に一人ひとりの心の中に抱えている想いを音楽に乗せて披露。ポエム大会もあり。

・チャレンジ（挑戦）イソット（2019.9.13）

　夏から秋の移り変わりをテーマに我こそは出し物にチャレンジしたい！という方の一芸大会。

・イソットクリスマスコンサート（2019.12.13）

　年納めの豪華出演陣によるクリスマスコンサート。ギター演奏やピアノ演奏はもちろんブラスバンド・演劇・ビンゴ大会まで充実の 2 時間。

・参加型巻き込みイソット（2020.3.6）　地元のケアプラザにて参加型のイソットを予定していたものの、新型コロナウイルスの為延期。（2020/7/17 に無事開催、即興演劇等で盛り上がる。）

日頃は自分の思いを表現するのが苦手な方も歌や演奏、踊りなどで活き活きと表現する機会となっているイソット。今後は他の地域への出張なども含め幅広い繋がりとエンターテインメントを目指して活動していく予定。

タイトル	めんちゃれ
日時	
場所	
参加人数	

2011年8月、当事者の恋愛をしたい結婚をしたいと言う要望を無視できなくなった支援者側のYMSN
(横浜メンタルサービスネットワーク)に、それなら、自分たちで婚活のイベントを企画しないか、
と呼び集められたトライ卒業生中心の有志達が、『めんちゃれ（メンチャレ)』の始まりです。
※トライとは神奈川県が実施する障害者を対象とした公共職業訓練です。
最初は簡単でインパクトのあるものをという事で、婚活が念頭にあった事もあり、『GoGo　婚活』と
名前を付け、横浜・上大岡にて月1回の会議からさまざまなイベントを企画・実行。
しかし、第一回イベントの反省を踏まえ、より多様性を含めて『めんちゃれ（メンチャレ)』と改名
。これは、メンタルチャレンジドから取って付けました。チャレンジドとはアメリカでの障害者を表現する言葉です。
イベントに参加して、当事者同士の交流を広げるチャレンジを後押しする意味もあります。
2代目代表は、ここから生まれたカップルです。
そして2019年より、YPSの傘下に。
これは、2017年2月にコラボイベント「今夜は恋愛」を開催したことがきっかけとなり、多様性を生きるYPSとともに歩むことになりました。
第3回ピアまつりでは「蔭山恋愛ゼミナール」に代表をはじめとするメンバーが登壇。
寸劇や“デートプラン総選挙”で活躍。
また、「当事者会万博」でも注目を集めました。
3か月おきの「めんちゃれスペース」では、恋愛したい・結婚したい男女が多数集まり、交流を深める結果に。
恒例のカラオケイベントは、毎回盛り上がりました。
2019年度の締めくくりはバレンタインデーに開催の「今夜は恋愛Ⅳ」。
60名以上の参加者があり、一定の目的を果たしました。
なお、翌日の運営会議にて、すべての機能をYPSに移管することが決定され、現在はYPSが主体となっております。

タイトル	ゆらいく
日時	
場所	地域活動支援センターひふみ　または　Zoom
参加人数	

ゆらいくは、精神障害がある当事者の出産や育児の応援をコンセプトに活動するピアサポートグル ープです。これから赤ちゃんを考えている当事者、子育て真っ最中のママ&パパ、保健領域の支援の 専門家などがメンバーとなり、2019 年５月に活動をスタートしました。
また同年 11 月に YPS と協力 しながら活動していくことが決まり、イベント情報の告知などで連携しています。名前の「ゆらいく」 は、ゆるゆる育児、ゆら～り育児からヒントを得ています。
ゆらいくでは、育児中の親子の居場所「リアル子育てカフェ」や外出が難しい育児中の方向けのイ ンターネット憩いの場「zoom 子育てカフェ」の運営を行っています。当事者の出産や育児は、自身の 体調管理もある中でなかなか大変さもあります。ゆらいくでは、当事者ママ&パパの仲間と、ちょっ とした悩みや漠然としたこれからの不安を、分かち合えるような場づくりを目指しています。2019 年 度に３回実施した「リアル子育てカフェ」ではそれぞれ十数名の方にご参加いただきました。「Zoom 子育てカフェ」は 2019 年 7 月より毎月実施しており、それぞれ１０～２０名の方にご参加いただき ました。

また、「きらりの集い２０２０」では分科会を行いました。 現在（2020 年 10 月)、困りごとの事例をプライバシー配慮しながら蓄積をして、当事者が望む育児 情報パンフレットの作成にも取り組んでいます。

ゆらいくホームページ（2020 年 4 月より）　https://yuraiku0501.wixsite.com/yuraiku

タイトル	おんぷにだっこ　～たっぷりおんがく～
日時	
場所	
参加人数	

2019 年夏、ギターが趣味のリーダーと、ピアノを演奏するサブリーダーが発足させたプロジェクト。
そこに、マンドリン奏者 1 名も加わり、3 人の演奏メンバーと作詞担当、見学者数名からなる。
「好きな曲をその場で」をモットーに、リクエストに応えて「即席カラオケ」も。
月 1 回 1 時間だけの活動ではあったが、
『リカバリーパレード in 横浜テーマ曲』『おんぷにだっこテーマ曲』『YPS テーマ曲』のオリジナル 3 曲を作成。
2020 年に入り、リーダー・サブリーダーの就労活動→就業により、惜しまれつつも活動を終了。

その他啓発事業

タイトル	プシケおおた交流会
日時	
場所	
参加人数	
2019 年 10 月 30 日に東京都大田区の社会福祉法人であるプシケおおた職員との交流会をかまた生活支援センターにて開催。 ぷしけおおたからは約 40 名の支援者が参加。 YPS から１２名ほどが参加し活動紹介やピアスタッフ、ピアサポーターについて説明し ワールドカフェを行い意見の交換や共有を行った。 グループホーム職員が多く参加していることが印象的でピアサポーターには地域移行に参加してほしいといった声もある一方、財政に余裕がないというジレンマを抱えていることなど率直な話を聞くこともでき、支援者とピアサポーター双方の意見を共有できる機会になった。	

タイトル	すごいぜ！ピネル工房
日時	
場所	
参加人数	
2018 年よりピネル工房にて毎月 1 回、講師として YPS より野間が開催していたピア勉強会で興味を持ったメンバーが 1 年後に神奈川ピアまつりに参加して自分たちの活動を紹介するまでに至った経緯、またピアまつりで発表しきれなかった内容を披露する機会を設けるために実施。 平日の日中だったため YPS からの参加者は 2 名に留まったが ピアについて全く知らなかった当事者が自分たちのペースでピアについて考え、学んできたことを丁寧に披露する機会となった。 また年 1 回、開催しているピネル工房のイベントであるピネル感謝祭にも参加しているが 、多くの方が足を運んでおり約 100 名の訪問があり年々、増加しており地域の方にも受け入れられていることが伝わってくる 1 日だった。	

タイトル	はるかぜピア交流会
日時	２０２０年１月２３日
場所	
参加人数	
川崎のピアサポーターと我らが YPS の交流会。 川崎ピアさん達の熱意に圧倒されました。	

タイトル	横浜市精連との共催研修　理想の精神保健福祉サービスとは
日時	2019 年 6 月 17 日 18:30～20:30
場所	神奈川県地域労働文化会館　会議室
参加人数	27 名

本研修は、横浜市精神障害者地域生活支援連合会（通称：市精連）と共同で開催した。内容として は、特定の講師の講義を聞くのではなく、ワールドカフェというグループワークの形式を用い、参 加者間での意見交換を通じて精神保健福祉の理想を形にしていくことを目指した。
参加者は、医療職、福祉職、当事者、弁護士、等、多様な立場から集まり、そうした多様な面々で 行うワールドカフェのメリットを最大限生かし率直な意見交換を促進するために、研修冒頭で演劇 ワークショップの技法を使ったアイスブレーク（参加者の緊張を取り、互いに打ち解けるためのウ ォーミングアップ）を行なった。 話し合うテーマは、事前にブレインストーミングを行い用意した 24 のテーマから、各テーブルのフ ァシリテイターが自由に選択する形式をとった。 「黙って座っている」というテーマを取り上げたグループでは、「黙って座っている人を、どう受 け止め、どう働きかけていくかは、まさに福祉における支援の本質的なテーマだ」との声も聞かれ るなど、一見すると異色のテーマが議論を深めることにつながることは、ワールドカフェの醍醐味 であった。 YPS としても重要なテーマである「理想の精神保健福祉サービスとは何か？」を提示するための一歩 として、当事者をはじめ多様な立場の人たちが集い様々な切り口での対話が同時進行する本研修の ような場を、市精連の持つネットワーク等とも連携し、地域で幅広く展開していくことが重要なの ではないかと実感する貴重な機会であった。

タイトル	『身体拘束を体験する会』実施報告
日時	2020 年 1 月 26 日（日）18:00-20:30
場所	ウィリング横浜　介護実習室
参加人数	参加者：41 名

YPS メンバーも多数参加し準備を重ねてきた、神奈川精神医療人権センター（KP）立ち上げイベントの一つとして、精神医療における人権をテーマとした勉強会を企画した。人権問題の一つとして、精神科病院における身体拘束を取り上げた。身体拘束の問題に詳しい杏林大学の長谷川教授に講師を依頼し、同時に実際に身体拘束を体験できる設備を用意した。
長谷川教授は、「身体拘束は体験できない」という厳しい一言から講義を始め、いかに、実際に精神科病院で行われている身体拘束が人権を侵害するものであるかを詳しく話してくださった。講義と同時に身体拘束を体験した参加メンバーからは、「非常な恐怖、罪悪感を感じた。足が冷たくなった。数十分で解き放たれると分かっていた自分でもこんな恐怖を感じるのだから、現に病院でいつ解かれるかも分からない拘束を受けている人たちの苦しみは想像もつかない。本当に、なんとかしなければならない、と感じた」との声が聞かれた。神奈川精神医療人権センターの本格始動に向けて、会場全体で問題意識を共有した時間だった。

タイトル	罪に問われた障害者について考える会
日時	10 月 2 日（水）１８：３０～２０：３０
場所	シャロームの家
参加人数	35 名
講師：細川慎一（NPO 法人 Hatch 代表。元葉山町会議員） 持っている障害ゆえに仕方なく罪を犯す人たち。そもそも良くないことをしているという意識その ものがない人たち。刑務所内に数多いると言われるそんな人たちのことを実例と実体験を交えて話 したのが YPS の盟友細川慎一氏。自らの服役経験を開示しながら話されるその内実に、僕たちはた だ圧倒されてその場に立ちつくす。いつもとは違う硬派な面々が集った YPS としては異色の企画。 思えばその時すでに KP の萌芽があったのか。	

タイトル	統合失調症薬物治療ガイドライン改訂会議
日時	5 月 12 日、11 月 23 日、1 月 13 日
場所	AP 品川
参加人数	
日本神経精神薬理学会からの要請を受け、YPS から当事者メンバー5 名が参加している統合失調症薬 物治療ガイドライン改訂会議。元来専門家のみで作られていたものに疾患当事者が参加するという のは画期的なことであり、良い意味で時代の流れを感じさせる。我々当事者が求めるのはやはり QOL や副作用を重要視するということ。専門家と互角に渡り合うために会議の２時間前に会場に乗り込んで予習と作戦会議をしているらしい。2019 年度に３度の会議を行うも、現在はコロナ禍により休止中。	

研究協力

タイトル	そうかい（相互理解）プログラム（当事者のユーモアある動画による教育プログラム）研究協力
日時	
場所	
参加人数	
大阪大学大学院　蔭山正子准教授による研究に協力。2017 年から 2019 年まで。 精神障害当事者と家族の間の相互理解を進めるヒントとなる動画プログラムを作成した。 完成したプログラム（DVD とテキスト）はネットに公開され、全国の家族会等に送付された。 動画プログラムは YPS の当事者（と家族会会員との複数回にわたるグループワーク出た意見等参考に作成され、また、10 人の YPS メンバーが実際に出演し、自らの体験やメッセージを語っている。動画プログラムの効果に関しては、蔭山先生が家族会会員を対象に効果測定調査を行い、研究結果を論文にまとめ、学会誌に発表した。	

タイトル	リビー先生　研究協力
日時	
場所	
参加人数	
2019 年 12 月 2 日、アメリカミネソタ州メトロポリタン州立大学のセリッサ・リビー先生による、「依存症と精神疾患からのリカバリー」についての研究に協力し、YPS から 11 名の当事者・家族・支援者・学生がリビー先生から個別インタビューを受けた。 リビー先生は、リカバリーパレードがきっかけで YPS メンバーとつながりができたアメリカの依存症リカバリー研究者ウィリアム･L・ホワイトさんの紹介で YPS メンバーにコンタクトを取り、今回のインタビューが実現した。 インタビューは、協力者の同意のもと一部動画撮影され、それらは後にポッドキャストされる予定。リビー先生からは、「大変有意義なインタビューができた」と、好意的なフィードバックをもらった。	

タイトル	エスノグラフィ研究への協力（大阪大学大学院）
日時	2019 年 8 月 27 日～9 月 10 日　ほか
場所	シャロームの家、ひふみ、工房四季　ほか
参加人数	約 50 名

以下の研究への協力として、YPS に関係する活動における参加観察の受け入れ、インタビューの調整・対応、資料提供、ディスカッション等を行った。

精神障がい当事者とつくる地域共生社会～横浜ピアスタッフ協会のエスノグラフィ～

本研究は、地域における精神障がいピアスタッフの役割の模索と推進、精神障がいの有無に関わらず人々がいきいきと暮らせる地域共生社会の実現への示唆を得ることを期待し、横浜ピアスタッフ協会の文化を明らかにすることを目的とした。

研究デザインは、エスノグラフィー（Spradley,1980）とした。研究対象の横浜ピアスタッフ協会は、2015 年に横浜のピアスタッフと支援者を中心に設立された「横浜をピアスタッフが生まれやすい町になること」を目的とした任意団体である。2019 年 8 月 27 日から 9 月 10 日にかけて現地における集中的な参加観察とインタビューを行い、その後必要に応じて追加調査を行った。データは、参加観察に基づくフィールドノート、インタビューの録音、事務局の作成する資料や出版物、ホームページとした。分析方法は、段階的研究手法（Spradley,1980）を参考とした。

結果として横浜ピアスタッフ協会の文化的テーマとして、「立場を越えた情熱の協働がうみだす変革の渦と協働・共生ネットワーク」が導き出せた。YPS は、A【シャロームの家を中心とした立場を越えた情熱の協働】によって B【枠組みからの自由と仲間をもたらす変革の渦】を巻き起こし、C【多様性を受け入れ緩やかに繋がる協働・共生ネットワーク】を構築していた。

【考察】横浜ピアスタッフ協会は、出会いと表現が行き交うグループダイナミクスの中で、個人の認識や行動を縛る枠組みを壊し、人々が仲間とともに固有の人生を歩むことを促していた。また、「健常者と障がい者」「支援する側とされる側」という枠組みを壊し曖昧にすることにより、精神保健医療福祉における権力構造に揺さぶりをかけ、精神障がい者の権利擁護とエンパワメントに貢献していた。さらに、コミュニティの枠組みを曖昧に広げ、曖昧で多義的なピア（仲間）という合言葉を広めることにより、多様性を受け入れ緩やかに繋がる協働・共生ネットワークを広げていた。

タイトル	紗亜耶研究発表会「YPS の最前線：『お祭り』は『支援』のオルタナティブとなりうるか」
日時	11 月 24 日
場所	ウィリング横浜
参加人数	

3 年間も YPS でフィールドワークをしていた上智大学の横山紗亜耶による研究発表会。YPS とは一体なんなのかという、YPS メンバーみんなが抱く疑問について一緒に考えた。
「参加資格なし」とうたい、誰でも参加することのできる YPS は実は戦略的に「受け身」の体制をとっている。このことによって雑多性を増したメンバーが「言ってはいけないことと、やってはいけないことがない」という極端なルールのもと、互いに「あえて言う」ことで熱気を増し、「受け身」で始まったはずの集団が徐々に積極的な「発信」を行う集団へと変化していく過程が明らかにされた。
しかし、散々「発信」をし、「お祭り」と「ばか騒ぎ」をするようになった先には何があるのだろうか？このクイズに対して、参加者は思い思いに回答し、最終的に「どうでもいい」という解答が導き出され、会場は大いに盛り上がった。

タイトル	紗亜耶研究発表会「全人類はピアになれるのか」
日時	2 月 18 日、2 月 25 日
場所	森の庭わーく
参加人数	

11 月 24 日の研究発表会の復刻企画。２週連続で YPS の「ピア文化」についてのディスカションが行われた。「どうでもいい」とはどういうことなのか。なぜピアサポートのキーワードが「どうでもいい」なのか。「どうでもいい」からこそピアサポートが可能なのか。以上の問題提起のもと、1 週目には「共感」をキーワードに意見交換が行われた。
2 週目のディスカッションでは、「ピア」とは、単に「仲間」と翻訳して済む概念ではないという考え方に会場が包み込まれ、「ピア」な関係には、「分かる」から仲間になるだけではなく、「分からない」にもかかわらず仲間になりたいと強く願う気持ちが大事なのではないかということが話し合われ、「ピアサポートは片思い」「両思いになることがピア」などの興味深い発言が飛び出した。

タイトル	あいりき
日時	
場所	
参加人数	

大阪大学准教授の蔭山正子先生が愛の本を作っている中で支援者が恋愛に対して否定的であり生活や就労だけでなく恋愛についても支援が必要なのではないかという考えにたどり着き、大学での正式な研究として承認を得たのち、埼玉県立大学の横山恵子先生、東京大学医学部付属病院の市橋香代先生を研究協力者に迎え、YPS からは堀合悠一郎、野間慎太郎が当事者として研究協力している。
また研究分担として国立精神医療研究センターの橋本亮太先生も参加しており様々な立場から研究に取り組んでいる。
コンセプトは「当事者の愛する力を磨くプログラム」であり座学だけではなくロールプレイも交えた 2 日間で 5 時間の講座となっている。
ファシリテーターは全員が当事者でありテキストの製作段階から参加し意見交換をしながら研修を行い２０２０年２月の合宿を終え正式に認定された。
この認定ファシリテーターは YPS からも数名が参加している。
当初は２０２０年３月から開始予定だったが前例がない研究のため大阪大学倫理審査が難航したことと折り悪く COVID-１９がしたことにより集会などに規制がかかり延期せざるを得なくなっている。
特に COVID-１９の流行で先が見えない状態が続いているため実施についてはこの情勢に大きく左右されると思われるが実施に向けて尽力している。

共同企画

タイトル	みんなでなんでもたのしくやろう会
日時	2019 年 11 月 9 日（土）15:00～
場所	踊場地域ケアプラザ
参加人数	40 名（四季の会、ゆめが丘 DC、YPS）

YPS と工房四季の合同企画として、一芸発表会を開催しました。YPS と交流がなかった工房四季のために、企画会の段階から大勢の YPS メンバーが泉区まで足を運んでくださいました。打ち合わせや進行も全て担っていただき、安心して工房四季チームは自分たちの発表をするまでに至りました。

当日は四季の会の他の職員やメンバーにも参加してもらい、大きな会場に人を集めることができました。このイベントを機にピアスタッフに興味をもつメンバーや、仕事をすることにより意欲的になったメンバーもいて、工房四季にとって大切な機会になりました。四季の会でも、ピア活動にもっと関心が集まればいいなと感じています。そのために今後も一緒に活動する機会を作っていきたいと思いました。

タイトル	ナソット第 5 回・第 6 回・第 7 回
日時	2019 年 4 月 18 日(木)・8 月 9 日(金)・12 月 8 日(日)
場所	中区生活支援センター フリースペース
参加人数	いずれの回も、50 名前後

第 5 回:イソット VS ナソットというテーマで、イソットチームとナソットチームに別れ、対抗戦を行った。内容は、バンド演奏・ギター演奏・クイズ大会・一芸合戦など。
最後に投票でイソットチームの勝利となった。
第 6 回:恒例の一芸大会と、落語家を招いての落語大会、そしてすいか割りを行い、参加者全員ですいかを食べた。
第 7 回:恒例の一芸大会と、ロックバンドのマスカレードデジャブを招いて、クリスマスライブを行った。

タイトル	大阪ツアー
日時	2019 年 9 月 29 日（日）、30 日（月）
場所	
参加人数	
YPS メンバー有志で野海さんがコーディネートしてくれた大阪ツアーに参加。29 日は大阪大学の学生（蔭山先生のゼミ）、大阪の当事者の方々との交流会。普段学生たちとふれあうことの少ない私たちにとってとても新鮮な時間となった。また、大阪でピア活動をしている当事者の方々と出会うことができ、情報交換できたことが良かった。30 日の午前中は大阪精神医療人権センターの方からセンターの活動についてのレクチャーを受けた。午後は大阪の福祉事業所「りかばりーすぺーすみーる」でランチをとり、利用者の方達と交流の時間を持った。大阪精神医療人権センターの話を聞けたことは、YPS として今後の活動を考えていく上で、とても貴重な機会となったように思う。	

タイトル	精神科病院に入院中の方の権利擁護活動の拡充に向けて～大阪精神医療人権センターの活動から～
日時	2020 年 2 月 21 日（金）13 時～17 時
場所	ウィリング横浜
参加人数	57 名　（参加費 500 円）
大阪精神医療人権センターの活動方針、活動内容についての紹介のほか、なぜ大阪でこのような活動が生まれたのか、活動が広がっていった経緯などについての話も聞くことができた。病院への訪問活動、電話相談の話など、実際に活動に携わっている方の話を聞くことができ、とても大きな刺激となった。その後、YPS 有志メンバーで神奈川精神医療人権センターを立ち上げていくにあたり、とても参考になった。 ※大阪精神医療人権センターとの共催事業	

タイトル	きらりの集い
日時	
場所	
参加人数	

２０２０年１月１１日から１３日まで開催された「きらりの集い２０２０」に連携機関である生きづらさ JAPAN より出演依頼があり 1 月 12 日の分科会である
「精神障害当事者本音トークバトル」に YPS から堀合研二郎、荒木雅也、横山紗亜耶、野間慎太郎が参加。
約 2 時間半にわたりピアサポート活動における障壁や支援者、医療とのズレについて、
またそれぞれの体験談やリカバリーについて率直に語る会となった。
タイトルほど過激なものではなく、ごく穏やかに参加者に向けて話をする分科会となったが参加者に届いていたかはわからない。
当日は生きづらさ JAPAN が撮影をしており後日、YouTube にて公開されている。
2 時間半ということで前後編に分かれているので内容に興味がある方は実際の様子が確認できる形になっている。
前編
https://youtu.be/ertuItw2yHE
後編
https://youtu.be/2lglDJ9eGxw

タイトル	人権勉強会
日時	
場所	
参加人数	

2019 年 12 月 3 日、2020 年 1 月 21 日、2 月 25 日の 3 日にわたって開催。
講師は、精神障害当事者会ポルケ代表・山田悠平氏。
「人が生まれながらにして持っている権利」これが「人権」である。
では、精神面での「生きづらさ」を抱える者にとって、人権を考える・主張するとは
どのようなことであるのか。
「自分ごと」として「生きづらさ」をとらえ、社会とのギャップを埋めていくための
「合理的配慮」をどう獲得していくか。
このような内容についてのべ 60 名ほどが聴講し、意見交換等が行われた。
2019 年 9 月末の大阪への遠征をきっかけに、2020 年 5 月には YPS のメンバーが中心となり、「神奈川精神医療人権センター（通称 KP)」が発足。
この勉強会を通し、KP への参加を決意したメンバーも在籍。
「人として生きる」
この、あたりまえがあたりまえである世の中を実現すべく、我々の活動がある。

オリジナル企画

タイトル	アトピー会
日時	二か月に一度、奇数月
場所	シャロームの家
参加人数	
肌のかゆみ、悩みについて語り合う自助形式で、手作りの食事を食べながら和気あいあいと楽しい雰囲気で行っています。	

タイトル	男子会・女子会
日時	5 月 8 日
場所	シャロームの家、分室
参加人数	
同性だけなら話せる性のこと、その他諸々を完全守秘義務厳守で語り合う会です。	

YPS 出版部

タイトル	「愛の本（仮)」について
日時	
場所	
参加人数	

２０１８年に明石書店より大阪大学准教授の蔭山正子先生と YPS で出版した「当事者が語る精神障がいとリカバリー――続・精神障がい者の家族への暴力という SOS 」に続く出版企画の第二弾。
蔭山先生が研究を進めていく中で精神障害者の恋愛について支援が必要ではないかという疑問がきっかけとなり２０１９年の夏ごろから YPS、めんちゃれ、ポルケ、ハピカの４団体で恋愛、結婚、出産、育児をテーマに企画、執筆を開始した。
基本的に体験談を載せていく形をとっており答えを提示する恋愛マニュアルではなく、あくまで読者自身で考えていけるように意識して作っている。
テーマが恋愛ということで様々な意見、原稿が届く一方で全てをそのまま採用することが難しいという状況になり２０１９年５月の編集会議で YPS の野間慎太郎が編集長を担当することになり、より当事者で作り上げる本へと変わっていった。
しかし出産や育児についての原稿が集まりづらいことや個人的な事情により提出した原稿の取り下げなど状況が二転三転し出版予定がずれ込んでいる。
予定では２０１９年夏だったが２０１９年末になり、現在は２０２０年春を予定しているが出版社から現状では出版できないことを告げられ急遽、見直しを行っている。
それに伴い本の正式タイトルを「精神障害者が語る恋愛と結婚とセックス」にすることを編集委員で決め、最終的な調整に向けて校正の専門家が入ることで当事者の意見、考えを最大限、反映してもらえるよう率直な意見交換をしている。
２０２０年３月現在、最終段階に達しており２０２０年の秋までには出版できるメドがたった。
当事者が中心となり自らの体験を赤裸々に綴っている前例のない本であり、
編集委員の共通認識としてこの本自体がピアサポート活動としての大きな成果となると確信している。

講師派遣

タイトル	ハーモニー豊岡　講師派遣
日時	
場所	
参加人数	
支援者向け研修に YPS より数名が参加。 午前中は県立福祉大学でピアについて研究を行っている行實先生による講演。 YPS は午後から参加し、体験発表を中心に行う。 テーマがピアサポートということもあり関心のある方が多く小田原など遠方からの参加者もいたのが印象的だった。	

タイトル	湘南茅ケ崎看護学校　講師派遣
日時	
場所	
参加人数	
看護学生の授業に YPS より数名が参加。 体験発表、ピアサポートについて、YPS についてを話す。 精神科の看護学生ではないため関心は低く話を聞いている学生が少ない印象だったが、多種多様な人と接するということが学生にとっては何よりも大切なことになるのではないかと思う。	

タイトル	藤沢病院　講師派遣
日時	
場所	
参加人数	
藤沢病院の院内研修に YPS より数名が参加。 体験発表とワールドカフェによる意見交換を行う。 主に看護師、作業療法士が多かったのだが精神科医も参加しており病院全体でピアに対する関心を持っている印象を受けた。	

結び

YPS が設立して、ちょうど５年となります。
え、もう５年もたったの！！いろんなことがあったぜ！ファンタスティック！！
いままで、いろいろな活動をさせていただきました。
２ヵ月に１回の定例会、本づくり、病院訪問、スポーツ、大学の授業の講義、パレード
などなど……。その他にも数え切れないほどのイベントがあり、
いろいろなところに行かせて頂いたり、いろんな人と出会ったね！！

住友会長の流行語もいろいろ誕生したよね！
「アイアムシャローム！」「まだまだ楽しいことあるはず！」「いい方向に！！」
すごいぜ、すごいぜ、自分ながら！え、知らない？知らんのかーーーーい
常にまきおこるムーブメント、そこで発生するエンターテインメント
君は１０００パーセント！
君も一緒に大縄跳びを飛びに来ないか！！テンポ！テンポ！

言葉は飛び越えていくぜ！！立場云々関係なしに！
人と人とが集まり、触れ合い、話し合う中でいろいろなものが生まれてくる。
発生する言葉、言葉が熱をおびている、その熱病いまだ冷めず！（お医者さん呼んで―――！！）
そして個人、個人も変化していく、それが YPS の醍醐味だね！
この５年間で本当に多くの方々と出会うことができました。
本当に感謝です。
その多くの方々が集まる中で、YPS は常に変化していけたし
刺激を受けることができたと思います。
これからもいろいろな方々と出会うのだろうなと思います。
いったい、どんな人たちと出会うのであろうか？
これからどんな YPS になっていくのだろうか？
まったく想像がつかないし、YPS はどこまでいくのであろう？まったく見えんぞ！

まだまだ伸び盛りの YPS。
ぜひ、これからも YPS の活動に多くの方のご参加お待ちしております。
一緒に大縄跳び飛ぼうぜ！！！

横浜ピアスタッフ協会会長
住友　健治

YPS 憲章
〇私たちは、「仲間（ピア）」を何よりも大事に思います。
〇私たちは、「私」を何よりも大事に思います。
「仲間である」と名乗った人は、みんな「仲間」です。
〇私たちは、「リカバリー体験」を語る事ができます。
〇私たちは、私たちの想像力がどんな壁をも乗り越えると信じています。
〇私たちは、開かれた関係、開かれた場を創造していきます。
〇私たちは、仲間に対して常に真面目にかつ誠実であり、常に面白くかつ
ユニークな存在でありたいと願 います。
〇私たちは、曖昧さ、自由、矛盾をこよなく愛します。
〇私たちは、以上の事を常に心がけ、活動を行っていきます。

役員、事務局名簿

横浜ピアスタッフ協会
会長
住友健治
副会長
瀧沢賢広
野間慎太郎
事務局長
堀合悠一郎
会長補佐
白石大介
広報
堀合研二郎

事務局名簿
みずめ
野間慎太郎
横山紗亜耶
鈴木仁

2019 年事業報告書執筆者

佐藤・サルーテ・孝

野海直子

蔭山正子

中村麻美

濱田唯

野間慎太郎

みずめ

小堀真吾

堀合研二郎

堀合悠一郎

横山紗亜耶

瀧沢賢広

松村尚之

荒木雅也

小笠原由紀

佐藤光展

イマカナ［支え合い］

地域から

子育て支援語り合う

生きづらさ抱える親集い

心の不調や生きづらさを抱えながら子育てをしている人を支援しようと、「子育てカフェ～ランチ親子交流会」が8日、横浜市神奈川区の地域活動支援センターひふみで開かれた。県内外から約30人の親子が参加し、子育ての悩みを語り合ったほか、育児支援の充実を行政に訴えていく必要性を確認した。

大阪大学大学院の蔭山正子准教授（保健学）が進める「精神障がい当事者の育児応援研究」に参加している精神障害者有志の主催。精神障害をはじめ、さまざまな生きづらさを抱える人にとって、子育ての悩みを相談できる場が少ないことから企画された。今回が第1回。

子育ての悩みを語り合った参加者＝横浜市神奈川区、地域活動支援センターひふみ

大きなテーマとなったのは、親の精神障害などを理由に、行政が子どもを親から引き離し、親族に養育を任せたり、児童養護施設などに入所させるケースがある問題。

ある女性は「子どもを奪われないかと不安があり、行政には精神障害のことを相談しにくい」と話した。別の女性は「子どもと一緒に暮らせるという安心感があれば、入院を含め治療に積極的になれる」とした。

子育て中の統合失調症の男性は「安易な親子分離は禍根を残す」と指摘し、「障害者総合支援法のサービスの居宅介護（ホームヘルプ）には育児支援も入っている。精神障害者も利用できるので行政に充実を訴えていきたい」と話した。適切な子育て支援は、障害のある親、その子どもはもちろん、多くの社会的メリットがあるとした。

会では今後、2カ月に1回のペースで交流会を開催する予定。問い合わせは「ひふみ」☎045（548）5742。（熊谷　和夫）

週刊 福祉新聞
THE FUKUSHI SHIMBUN
創刊1955年
2019年（令和元年）11月25日 月曜日発行
発行所 福祉新聞社 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-1 尚友会館1階 電話 (03) 3581-0431 www.fukushishimbun.co.jp

地域共生社会

「交流」「参加」の機会 創出

厚労省 市町村の新事業で骨子

厚生労働省は18日、地域共生社会の構築に向けた、市町村による新たな事業の骨子を明らかにした。「断らない相談支援」「参加支援」「地域づくり」の三つを一体的に実施できるよう交付金を設ける。住民の交流や参加の機会を創出する「地域づくり」については、福祉以外の政策領域との連携重視を明確に打ち出した。新事業は社会福祉法に市町村の任意事業として位置付ける方針。2020年の通常国会に改正法案を提出する。（福田敏克）

新事業の骨子は、同に関する検討会（座長＝宮本太郎・中央大教授）に、最終報告の素案として示した。12月10日の次回会合で最終報告をまとめる。

新事業は、18年4月施行の改正社会福祉法が、市町村の努力義務とした「包括的な支援体制の構築」（第106条の3）を後押しするもの。複合的な生活課題を抱えながら、制度のはざまに埋もれがちな人や家庭を把握することが主な狙いだ。

そのため、相談支援体制は「多機関連携」と、つながり続けることを目指す「伴走型支援」を強化する。既存の相談支援事業を再編し、横断的に漏らさず対応できるようにする。場所の確保や、コーディネート機能が重要になる。

「参加支援」は、就労、住まい、学習など多様な形の社会参加を促すもの。既存制度に該当するメニューがない場合は、生活困窮者自立支援制度の任意事業に位置付ける。

新事業のうち市町村の総合力が最も問われるのが、「地域づくり」だ。住民同士の助け合い活動の呼び水となる「交流」や「参加」を活性化することが柱だ。そのための居場所の確保や、コーディネート機能が重要になる。

「交流」や「参加」は福祉の枠にとどまるものではないため、同日の素案は「他の政策領域において、親和性の高い理念を掲げて進められている施策と連携を図ることが重要」と明記した。

文化芸術と親和性

「出会いが価値生む」

「交流」や「参加」を促す考え方は、障害者文化芸術活動推進法に基づいて、文部科学省・厚労省が今年3月に策定した基本計画と親和性が高い。

同計画は「文化芸術活動は多様な人々の出会いの場を創出し、その交流を通じて新たな発想、気付き、価値が創出される」とした。

その実例と言える「合同文化祭」が9日、横浜市内で開かれた。精神障害者ら14人が手品、三線、ダンス、詩の朗読などをそれぞれ披露した。写真。普段は異なる法人の障害福祉サービス事業所に通う人たちが、企画を練って集う「ありそうだけどなかった文化祭」（参加者）だ。

発案したのは、精神障害者が通う地域活動支援センター工房四季（同市泉区）施設長の濱田唯さん。「職員だけで利用者の回復を支えるには限界がある。いろいろな人と接する機会を増やすことで可能性を広げたかった」と狙いを語る。

成果は少なからずあった。ピアノを演奏した菊地愛美さん（29・就労継続支援B型事業所ゆめが丘DCに通所）は、「演奏を聴いてもらえたことだけでなく、他法人の利用者と知り合えたのが大きな収穫」と話す。

障害のある当事者同士が支えあう「ピアサポート」に関心を持ち、自身にとって初の就職を目指し、「就労関係の情報を得るには人と出会うことが大切だ」と意欲を見せる。年内には就労移行支援事業所に移る予定だ。

濱田さんは「普段お会いしない人が、打ち合わせの時に意見を述べてくれて驚いた。他事業所の障害者の姿を見て刺激を受け、一歩踏み出せたのかも」と手応えを感じている。

障害者の文化芸術活動をめぐっては、国の基本計画に基づいて地方公共団体が計画を作ることが努力義務になっているが、策定済み・策定中の自治体はごく一部にとどまる。

厚労省は「2020年度にも障害当事者、障害福祉事業所を対象に、文化芸術活動の取り組み状況を全国規模で調査する予定」（障害保健福祉部自立支援振興室）という。

◆市町村の新事業の骨子（実施は任意）

断らない相談支援	**本人・世帯の属性にかかわらず受け止める** ⇒重視する機能：多機関協働の中核／専門職による伴走型支援
参加支援	**社会とのつながりを回復する支援** ⇒制度の狭間を埋める参加支援を新設する（市町村が事業を柔軟に組み立てる）
地域づくり	**孤立を防ぎ、多世代の交流や多様な活躍の場を確保する** ⇒交流や参加の機会を創り出すコーディネート機能を確保する

AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」に合わせて踊った（右端に立つのが濱田さん）

精神障害者が仲間支援

普及目指し「ピアまつり」

（横浜）精神障害者が同じ立場の仲間を支援する「ピアサポート活動」の普及を目指した「神奈川ピアまつり」が14日、横浜市中区の市健康福祉総合センターで開かれた。県内外から参加した260人が、障害への理解を深めつつピアサポートの意義を確認した。

YPS横浜ピアスタッフ協会の主催で3回目。複数の分科会やステージイベントなど多彩な企画を展開した。

「YPSフェス辛口」と題したシンポジウムでは、発達障害や双極性障害などの当事者や家族、支援者らが登壇。うつ病の当事者は「気力も体力も精神力もない。毎日が虫の息の状態」。司会者にそれでもシンポに登壇した原動力を問われると「何もないです」と語った。

精神科医療の在り方も話題に。統合失調症の当事者は「人間だからいい時も悪い時もある。（感情が）ぐちゃぐちゃしている時に教科書通りの無機質な対応をされるとかちんとくる」と強調した。

医療関係者からは「数分の診療で薬を処方する、といった無責任な態度の医師がいるのも事実」「患者さんの思いを一番に考えて動いている地域の看護師はいっぱいいる。そういう人たちとつながってほしい」といった声が上がった。

同協会の堀合研二郎さん（38）は精神障害者に対する偏見がいまだ根強い現状を明かし、「当事者の存在をメジャーにするため、ピアまつりを継続的に開催したい」と話した。

（服部　エレン）

率直な意見が交わされた「神奈川ピアまつり」のシンポジウム＝横浜市中区

復活の木やり歌も披露

八雲神社で祭り　練習重ね有志ら

（横須賀）横須賀市芦名の八雲神社で14日、例祭「八雲祭」が行われ、地元有志がおよそ半世紀ぶりに復活させた木やり歌を披露した。

地元有志の尽力でおよそ半世紀ぶりに披露された芦名木やり歌＝横須賀市芦名の八雲神社

地元
神社の
後期の
年製作
20年
この地
祭りな
たとい
前から
地元
を録音
や、歌
いたこ
7年に
やり保
の雑音
始まり
り、毎
て初披
この
須賀市
でお披
れたの
体が赤
色、青
編成（
も8両
色には
開の劇
ポスタ
黄色に
キャラ

「内なる偏見」吹き飛ばせ

神奈川　精神障害ピアまつり

大阪、東京、福岡、大分から約50人が参加した

したアンケート調査報

どういうふうに自立支

精神障害者が自身の経験を生かして仲間を支える「ピアサポート」の普及を目指す、第3回神奈川ピアまつりが14日、横浜市内で開かれた。YPS横浜ピアスタッフ協会（住友健治会長）の主催。

福祉施設の建設反対運動に見られるような、精神障害者への偏見をなくすには、精神障害者自身にある「内なる偏見」を吹き飛ばす必要がある、との考えから、歌、ダンス、楽器演奏などを披露したり、それぞれの生きづらさを語ったりした。

10代後半で統合失調症を発症し、精神科病院への9回の入院を経て就労継続支援B型事業所「シャロームの家」（横浜市）に通う藤井哲也さん（60）は、先輩患者から受け継いだ病院暮らしの実情を紹介する歌をユーモラスに披露した。

明るく振る舞う一方で、自宅に引きこもったり家族に暴力を振るったりした過去については、同協会編著の『当事者が語る精神障がいとリカバリー』（明石書店）につづった。

以前はそうした「つらさ」を封印しようとしたが、ピアサポート活動に参加するうちに、病にまつわる否定的な気持ちや経験を人前で語ることが共生社会につながる、と考えるようになったという。

シンポジウムでは藤井さんをはじめ、発達障害、薬物依存症、うつ、双極性障害の当事者が学校でのいじめ被害、家族との葛藤、自殺した仲間のことなどを語った。

ピアまつりに賛同する人は年々全国に広がり、今回は福島県、愛知県など各地から当事者、医療・福祉職、当事者の家族など約280人が参加した。

20代前半に引きこもりを経験した住友会長（34）は「近ごろ引きこもりの人にまつわる事件が注目されているが、私たちの姿を見てもらうことが偏見をなくすことにつながるのではないか」と話している。

（福田敏克）

ピアまつりを盛り上げる踊りが披露された

成人の課題に支援を

東京の発達障害当事者会が連携組織

成人した発達障害者の生活上の課題を集約し、公的な支援を求めて発信しようと、「東京都発達障害当事者会ネット」が15日に発足した。

都内の当事者会10団

動けるから大丈夫」患者を縛る精神科医の言い分が間違っている理由
実際に縛られてみてわかったこと
2020年2月8日現代ビジネス掲載
https://gendai.ismedia.jp/articles/-/70261?imp=0
佐藤 光展
ジャーナリスト

人の意に反して体を縛り付け、自由を奪う行為は言うまでもなく犯罪だ。だが精神医療の現場では、精神保健指定医の指示のもとで「合法的な拘束」が日常的に行われている。
もちろんそれは、適切な治療を続けるために、やむを得ず一時的に行う拘束に限られる。ところが近年、「患者の管理がラク」といった医療者の都合で行う身体拘束が急増している。それだけではない。拘束が原因とみられる死亡事案も、次々と報告されているのである。
「身体拘束は体の動きがどれくらい制限されるのか」 「縛られたらどんな気持ちになるのか」――。
身体拘束の非人間性を体感するため、福祉職やピアスタッフ（福祉施設で働く疾患・障害当事者）たちが、実際に精神医療の現場で使われているマグネット式拘束具で縛られてみる「身体拘束体験会」が、2020年1月26日、横浜市で開かれた。
回復した精神疾患患者らがつくる横浜ピアスタッフ協会の主催で、50人弱の定員はすぐに埋まった。精神科医や看護師が体調管理のため付き添う中、希望者が順番にベッドに横たわり、手足や胴体を縛られていった。
身体拘束は10年で2倍に
精神科での身体拘束の急増は、私が2016年にスクープした新聞記事「患者拘束1日1万人 10年間で2倍に」（2016年4月8日、読売新聞朝刊）で広く知られるようになった。この集計の元となった調査は身体拘束の定義があいまいで、詳細に調べると拘束数はさらに膨れ上がる可能性があった。
そこで、国の研究班が調査を始めたのだが、日本精神科病院協会などの抗議で頓挫。現在行われている1年ごとの集計も十分な精度があるとはいえないが、2018年度の調査日（6月30日）には、身体拘束数は1万1362人（精神保健指定医が身体拘束の指示を出した数）にのぼった。
身体拘束体験会では、「精神科医療の身体拘束を考える会」を立ち上げた杏林大学教授の長谷川利夫さんの講演と並行して、同じ会場内に精神科医と看護師の協力による体験コーナーが設けられた。
精神科病院関係者には、患者の身体拘束に肯定的な者も少なくない。しかし体験者たちの感想は、医療者の見解とは明らかに異なるものとなった。
何か月も縛られるなんて…
最初に体験したのは、横浜市内の地域活動支援センターで施設長を務める中村麻美さん（38）。肩の固定は行わず、手足と胴体の固定に留めた身体拘束を30分間受けた。
この状態だと、腹筋などの力で上半身を起こすことができ、上半身を左右に少しねじることも可能だ。だが、手足が固定されているので十分な寝返りは打てず、すぐに仰向けの状態に戻るしかない。
手足と腰の身体拘束を体験する地域生活支援センター施設長の中村麻美さん

肩の拘束が無くても、寝返りを十分に打つことはできない。上半身を無理な姿勢でねじることになり、体の負担が大きい。
体験を終えた中村さんはこう語った。
「30 分が本当に長いと思いました。この体験会ではお医者さんも看護師さんも、参加者のみなさんも近くにいてくれるのですが、それでも『自分の存在を忘れられているんじゃないか』というような疑心暗鬼にとらわれました。
身体的につらいと感じたのは、私はもともと冷え性なのですが、普段と比べて考えられないほど足が冷えたということです。手はわりと動かせるのですが、足は少し開いた状態からほとんど動かせません。
最初に精神科の先生から『エコノミークラス症候群を防ぐために、頻繁に足首を動かしてくださいね』と言われました。初めはピンとこなかったのですが、時間が経つにつれて足がどんどん冷えてきて、これはまずいなと思って、足首を必死に動かすようにしました。でも、終わった今でも足の冷えが続いています。
何日も何か月もこんなふうに拘束されるなんて、想像すらしたくありません。
今回は 30 分で終わると知っているし、私は希望して受けていますが、それでもこんなに苦痛なのです。これを患者さんは意に反して受けて、いつ終わるかもわからない。縛られているうちに、『自分はひどく悪いことをしたのではないか』とか、『悪いことをしたからこんな状況に置かれているのではないか』と、自分を責める気持ちがすごく高まるのを感じました。
患者さんをそういう状態に追い込むと、精神疾患はますます悪化するのではないでしょうか」
なぜか沸いてくる「罪悪感」
続いて、双極性障害から回復し、今は患者支援のピア活動を熱心に続ける横浜ピアスタッフ協会副会長の野間慎太郎さん（38）が、30 分間の身体拘束を体験した。野間さんは治療中に身体拘束を受けたことはなく、これが拘束初体験となった。
「拘束されて 2～3 分もすると、体を無性に動かしたくなり、思わず上半身をねじったり、拘束を外そうとしたりしました。不自然な動きを強いられるので、拘束を外してもらった後も体のあちこちが痛いです。身体拘束は治療の一環などではなく、心身へダメージを与えるものでしかないことがよくわかりました。
中村さんも先ほど言っていましたが、縛られていると罪悪感が沸き上がってきます。今は犯罪を犯した人ですら、刑務所で体全体を縛られることはないのに。 実際の患者さんの場合、いつまで拘束が続くのか分からないわけですから、とてつもない恐怖に襲われるでしょう。だから当然、体を必死に動かして抵抗したり、大声を上げたりします。それが普通の反応です。
会場の後方で身体拘束を体験したピアスタッフの野間慎太郎さん。悪い事をしていないのに「罪人のような気持ちになった」と語る
しかし多くの精神科病院では、それを『不穏状態』だと解釈して拘束をさらにキツくしたり、薬の量を増やして眠らせたりする。縛られたら逃げたくなるという人間として当たり前の感情を、あらゆる手段で抑え込もうとするのです。
こんなものを治療の一環だと言っているドクターは、自分も一度縛られてみたほうがいい。長時間の身体拘束を体験してもらったあとに、『それでもあなたは患者を縛りますか』と聞いてみたいですね」
実際の身体拘束では、体験会では再現できない苦痛も加わる。身体拘束中はトイレに行けないた

め、強制的にオムツをはかされたり、導尿されたりするのだ。私はこれまで、数多くの身体拘束体験者を取材したが、特に若い女性の患者には、オムツや導尿の強制によって心に深い傷を負った人も少なくなかった。
精神科の身体拘束は、常に人権侵害の危険をはらんでいる。だからこそ海外では、身体拘束を全廃したり、拘束の時間を数時間に限定したりする取り組みが拡大している。日本でも、身体拘束を極力行わない病院が出てきたが、まだ一部に留まっている。
報道に対する「圧力」
過度の身体拘束が生じる原因として、精神科特有の「看護師不足」を指摘する声がある。精神病床での看護師の配置人数は、一般病床よりも少なく設定されているため、精神科病院は慢性的な人手不足なのだ。
精神科看護師の苦労は理解できる。だが、それを理由に拘束を肯定するのは筋違いだ。「忙しいから縛る」「人手が足りないから縛る」という理屈は通用しない。
拙著『なぜ、日本の精神医療は暴走するのか』（講談社）では、身体拘束の原則廃止を先駆的に実現した民間精神科病院の実践例や、身体拘束による深刻な被害なども詳しく報告しているので、参考にしていただきたい。
身体拘束の問題は、ここ数年で多くのメディアが取り上げるようになった。しかしこうした動きに対して、民間精神科病院を中心とした約 1200 病院で構成される日本精神科病院協会が、圧力をかける問題も起こってきた。
2019 年 9 月 1 日、読売新聞大阪本社版に「身体拘束 突然死の危険 3 年で 40 人以上」という記事が掲載された。死亡する前に精神科で身体拘束されていた人たちのうち、司法解剖の結果などから、拘束との「因果関係がある」、あるいは「因果関係が否定できない」と判断された事案について、全国の警察本部を取材し、警視庁を除く 46 道府県警から回答を得た調査報道だった。
結果として、2016 年 1 月から 2018 年 11 月の約 3 年間で、これに該当する死亡者は計 47 人に上ることがわかったという。全国で少なくとも 47 人が、精神科での身体拘束の影響で死亡した可能性があることを意味している。
この記事に対して、日本精神科病院協会は読売新聞大阪本社に抗議文を送った。同協会が特に問題視したのは、身体拘束のイメージ写真として、重度の身体拘束（手足、腰に加え、肩も拘束した身体拘束）の再現場面を使っていたことだった。抗議文にはこうある。
「通常は、より軽度の部分的拘束がなされているケースが多く、患者には相当程度の可動域が確保されております。しかし、今回のように極端な拘束の写真を掲載することにより、精神科医療ではこのような拘束を日常的に行っており、また、精神科の患者はこうした重度の拘束を要する危険な存在であるかのような印象を与えかねず、精神障害者と精神科医療従事者に対する偏見を助長し、その意味で精神科患者を冒涜するものです。延いては、国民全体のメンタルヘルスの推進を大きく阻害する惧れがあります」（原文ママ）
しかし、この抗議文が指摘している「相当程度の可動域」は、拘束された患者にとっては無きに等しいものであることが、前述した体験談からもお分かりだろう。読売新聞大阪本社の取材にも協力した前出の杏林大学教授・長谷川利夫さんは、次のように語る。
「そもそも、片手をベッドに括り付けられただけでも、それは身体拘束なのです。移動の自由を完全に奪われるわけですから。『可動域が確保されている』といったことは身体拘束を正当化するものではありません。救いを求めて入院する人たちを安易に縛ること自体が、看過できない大

問題なのです」

患者たちは声を上げ始めた

抗議文にある「精神障害者に対する偏見を助長」「精神科患者を冒涜」という言い草も、精神医療関係者の常套句として頻繁に使われてきたものだ。彼らは、自分たちが不適切な医療行為などで患者を追い込んでいることは棚に上げ、あたかも患者の側に立つ誠実な代弁者であるかのように装って、現実を伝える報道に圧力をかけてくるのだ。

私がかつて新聞記者として、多剤大量処方やベンゾジアゼピンの漫然処方について批判的な記事を書き続けた時には、多量の薬に頼るしかない技術不足の精神科医たちが「患者を著しく不安にさせる記事だ。患者や家族が非常に困っているので訂正せよ！」と抗議を寄せた。しかし国がその後、向精神薬の処方剤数に厳しい制限をかけたことをみれば、どちらが正しかったのか、おのずと明らかだろう。

日本精神科病院協会は抗議文で、この写真のせいで精神疾患患者が「危険な存在」だと誤解される、とも指摘した。だが、暴れてもいない精神疾患患者までも「危険な存在」「面倒な存在」とみて、安易な身体拘束を行なってきたのは誰なのか。身体拘束数を必要以上に増やして、偏見を助長してきたのは誰なのか。

今回の身体拘束体験会で、長谷川さんから抗議文の内容を聞いた参加者たちは、「我々をダシに使わないで欲しい」「患者を追い込んでいるのは精神科病院ではないのか」「この抗議自体に抗議したい」などの声を上げた。

ブラック精神科医たちの言い分がまかり通って来たのは、患者の声が著しく小さかったためだ。だが、昨年 12 月 15 日掲載の記事で横浜の動きを紹介したように、各地で患者たちが少しずつ立ち上がり始めた。

患者の声を受けて、精神医療が確実に変わっていくことを願っている。

第3回神奈川ピアまつり
2019年7月14日（日）12：30〜16：30
横浜市健康福祉総合センター 4階ホール 8F 8B

4階ホール オープニング YPSフェス辛口 YPSフェス甘口 クロージング
8F 分科会1A蔭山恋愛・結婚ゼミナール 2A病院とピアが一緒にできること
8B 分科会1B双極性ワンダーランド 2B当事者会万博

（横浜市中区桜木町1丁目1 JR/市営地下鉄「桜木町」駅下車 徒歩1分）
主催・お問い合わせ YPS横浜ピアスタッフ協会 事務局（シャロームの家）
ピアまつり専用電話 080−3596−3003
メール shalom1@jupiter.ocn.ne.jp
申し込みサイト（こくちーずプロ） https://www.kokuchpro.com/event/kanagawapeer/

完全事前申し込み制
参加費（会場受付にて回収） 当事者500円 当事者以外1000円

タイムスケジュール
12：00 開場、受付開始
12：30 開演 ピアまつり盛り上げ隊によるオープニング！
12：50 民族大移動
13：10 8Fにて分科会1A蔭山恋愛・結婚ゼミナール！8Bにて分科会1B双極性ワンダーランド
4階ホールにてYPSフェス辛口
14：25 民族大移動
14：40 8Fにて分科会2A病院とピアが一緒にできること 8Bにて分科会2B当事者会万博
4階ホールにてYPSフェス甘口
16：00 民族大移動
16：15 4階ホールにてなんでもありのクロージング！
16：30 大団円で終了！
（中華街に移動して懇親会！会費は4300円懇親会場受付回収）18：00〜

精神障害の当事者として精神障害の当事者を支援するピアスタッフやピアサポーター、通称「ピア」。日に日に高まる彼らへの期待、渇望の声。そして脚光を浴びつつある彼らの活動。だけどまだ足りない！もっと注目を集めたい！もっと高いレベルのことをやりたい！
そう思って始めたYPS横浜ピアスタッフ協会主催の『神奈川ピアまつり』。早いもので今年で第3回目を迎えることとなりました。
遠方からの参加者をもっと集めたい！もっとより間口を広げたい！ということで今回は初の日曜開催！そして同時並行で3つのプログラムを進行するという僕たちにとっては初の試みです！
どうなることか？期待と不安の入り混じった気持ちで準備を進めていますが、とにかく僕たちピアの活動をもっともっとより多くの人に知ってもらいたい！そしてもっとより良い活動に高めていくために沢山の人たちの意見や智恵を聞きたい！だから大勢の人に集まって欲しい！そんな思いは一つだと考えています。
時間も規模も大幅に拡大し、そしてより「まつり」感を増した史上最大の『第3回神奈川ピアまつり』。是非とも多くの方に参加していただきたいと願っております。7月14日に皆様にお会いできるのが本当に楽しみです。よろしくどうぞ！ （YPS横浜ピアスタッフ協会 堀合研二郎）

精神障害者が語る 恋愛と結婚とセックス

当事者・家族・支援者のお悩みQ&A

YPS横浜ピアスタッフ協会
精神障害当事者会ポルケ
藤山正子、横山恵子 編著

恋愛と治療、結婚と回復……。症状に苦しみながら、当事者たちはどうリカバリーし、そしてパートナーと出会ったのか。恋愛や結婚に不安をもつ当事者の方、周囲で支える家族や支援者の方向けに、当事者と専門家がチームを組み、時に優しく時に真剣にアドバイスを贈る。

●定価(本体2,000円+税)

A5判/並製/256頁 ISBN978-4-7503-3083-0

〈内容紹介〉

はじめに [藤山正子]
結婚チーム、バンバー誕生! [ヨシヤマ・ヒロシ]

第1章 統合失調症と暮らす [藤山正子・横山恵子]
1 統合失調症とは何
2 統合失調症のリハビリテーション・回復

第2章 双極性障害と私 [[illegible]]
1 双極性障害の患者と恋愛
2 躁状態とトラブル
3 うつ状態は恋愛感さわがしを育ててくれる貴しい時期
4 私がたどり着いた答え

第3章 精神障害者の恋愛に関する悩みQ&A [[illegible]]
はじめに [藤山正子]
STEP0 具体的に行動していない段階
STEP1 彼子を見つける前で
STEP2 恋中の彼子を見つけて、お付き合いするまで
STEP3 付き合ってから
STEP4 [illegible]

第4章 精神障害者の結婚に関する悩みに答えるQ&A [[illegible]]
はじめに 精神障害と結婚 [[illegible]]
STEP0 具体的に結婚に向けて行動していない段階
STEP1 結婚を具体的に考える段階
STEP2 結婚してからの段階
STEP3 子どもをつくるか決める
STEP4 子どもをつくるとき決めて

第5章 精神障害とセックス
はじめに [藤山正子]
「性についての座談会」について [[illegible]]
性についての座談会
[illegible]／社会と接する最小単位の人間／[illegible]／性について、大人はホントのこと／[illegible]／人と人のつながりって何?／結婚、大切なのはもんだのり／話し合って見えてきた私たちとセックス

あとがき [藤山正子、横山恵子]
おわりに [[illegible]]

〈著者紹介〉

YPS横浜ピアスタッフ協会
[illegible]

精神障害当事者会ポルケ
[illegible]

藤山正子(ふじやま・まさこ)
[illegible]

横山恵子(よこやま・けいこ)
[illegible]

明石書店 TEL.03-5818-1171 FAX.03-5818-1174
〒101-0021 東京都千代田区外神田3-9-5
[illegible] http://www.akashi.co.jp

[illegible]

●最寄りの書店へ、このチラシご持参の上、ご注文ください。
●直送ご希望の方は、電話またはFAX又で弊社へお申しこみください。
代金引換え郵便でお送りします。代金は配達の方にお支払いください。
書籍代(本体価格+消費税)に加え、送料として一律300円かかります。

書籍欄
冊

精神障害者が語る恋愛と結婚とセックス
当事者・家族・支援者のお悩みQ&A
YPS横浜ピアスタッフ協会、精神障害当事者会ポルケ、藤山正子、横山恵子 編著

●定価(本体2,000円+税)
ISBN978-4-7503-3083-0

フリガナ TEL
お名前
ご住所 〒

明石書店
TEL.03-5818-1171
FAX.03-5818-1174